

あひる子

 甲声合唱団
ダンディーズ

広報誌 特集号

2014年3月発行

創立20周年記念
第8回演奏会特集

2013年10月6日（日）開催
於：東久留米市まろにえホール



東久留米市内の清流
落合川

創立20年記念 第8回演奏会を終えて

代表 石川 颯男

まずは創立20年に関して、よくもここまで続けてきたものよと感無量です。いわゆる男声合唱団と名のつくのは全国を見渡しますとそれこそ沢山有り、中には何十年も続き演奏会を何十回も重ねてこられている団も相当数有ります。そういった合唱団のほとんどが学校のクラブ活動からの延長線上にあるOB中心の合唱団といってもいいでしょう。こういったところは先輩・後輩の合唱仲間が伝統に守られた指導、運営により固い絆で結ばれ楽しく歌っています。

一方我々の合唱団のように学校も企業も関係のない歌好きの仲間達が三々五々集まって楽しんでいるいわゆる街の合唱団も沢山ありますが、これらはみな共通の悩みを抱えながらも合唱を楽しもうと悪戦苦闘しています。メンバーがみな年々歳々年を重ねそれを補う若手の確保が困難なことがそれです。高校・大学での部活経験者を探そうにも、当市のように小さな街ではなかなか見つかりません。このような中20年も続けて来れたのは一にも二にも武藤さんという優れた指導者が我々出来の悪い生徒を辛抱強く引っ張って来てくれたお蔭と感謝しております。

スタート時点での7人の侍から始まり今では26人までに大きな団体に成長してきました。なんと素晴らしいことでしょう。

思えばいろんな曲を歌ってきました。定番の男声合唱組曲、あの多田武彦作品をはじめ清水脩、武満徹のものや難解なシューベルト歌曲、さだまさしなどのフォークソング、美空ひばりなどの歌謡曲などなど……。数えきれないほど多岐にわたる曲に挑戦してきました。

この度の第8回演奏会もこのようなコンセプトでステージを作り上げました。なかでも高田三郎の「水のいのち」にはみんなが燃えました。熱く熱く練習に取り組み持てる力を出し切って本番では今迄の演奏会にも無かったような素晴らしい音をホール一杯に響かせたのです。まるでホールを満員に埋めたお客様からの物凄い拍手、アンコールの催促、感動で胸がいっぱいになりお客様1人1人にステージ上から無言の御礼を申し上げました。

・・・このすごい仲間達とこれからも一緒に歌って行きたい、一緒に苦勞もしてみたい、この綺麗な街東久留米にダンディーズ有りと誇りを持って胸を張って歩いて行きたいと思います。



新調プレザー初ステージ



「水のいのち」

指揮 武藤 茂

ダンディーズ20周年記念演奏会のプログラムビルディングについて、音楽委員会で議論する中で、何か芯になるような大曲に挑戦したい、という意見があった。検討の結果、高田三郎先生の組曲「水のいのち」をとりあげることとし、練習に取り掛かったのは、演奏会の8.5ヶ月ほど前の2013年1月20日であった。この曲は邦人合唱作品の中に燦然と輝く名曲であったが、どちらかといえば混声合唱、女声合唱版がメジャーであり、男声版は後に編曲されたこともあって、歌ったことのある団員は少なかったと思う。とくに私が心配したのは第4曲「海」であった。ダブルコーラスの構成であり、それぞれが交互に絡み合いながら演奏していく、そのために、パートを二分しなければならず、人数の少ないダンディーズでは演奏は到底不可能だろうと思われた。しかし、取り組んでみると Coro I と Coro II とは共通部分も多く、何とかなるのでは、と感じるようになった。計画通りに、五曲全部をステージに載せるレベルまで到達させることが出来たのは、団員ひとりひとりの努力と、中村先生の好サポートによるところが大きい。

難しいこの組曲を、なぜ比較的短期間で仕上げる事が出来たのか？それは、一つには皆がこの曲を好きになったからであろう。曲に対する愛情と思い入れがあって初めて歌に気持ちが込められる、そしてそれは必ず良い演奏につながるのだ、私はそう思う。苦手な外国語の歌詞だから、苦手なシンコーペーションが多いから、いろいろ人それぞれ曲に対する温度差はあるだろう、しかし、どんな曲でもまずその曲を愛することから始めることが大事だ。練習を開始してから本番までの仕上がりのペースは驚く程の急カーブを描いて上昇した、それは今までのダンディーズでは考えられないことであった。



この曲は指揮する上でも決して易しくはない、高田先生の譜面は驚く程細かい指示で埋められているし、ディナーミク、アゴーギクの変化も多く、変拍子まで登場する。また、この曲の背景についても、私自身も多くのことを勉強しなければならなかった。その結果、思ったことは、高田先生はこの曲の中に、宗教的な思いを込められているのではないか、ということだった。

先生はキリスト教の敬虔な信者であり、日本語の「典礼聖歌」をお書きになっていて、その中では、グレゴリオ聖歌の韻律が生かされている、韻律とはグレゴリオ聖歌のネウマ譜上に記されている歌い方の指示である、強弱は言葉の重要度と必ず一致している。

そして、「水のいのち」でも、高田先生はこのグレゴリオ聖歌の語法を用いている。高田先生は「水のいのち」の水の魂の連関というテーマを祈りの音楽として語りたかったに違いない、所々出てくる変拍子も、そしてアウフタクトの扱いも、すべてグレゴリオ聖歌の語法なのだ。この曲の深奥にあるものに気づき、私も遅ればせながらグレゴリオ聖歌を勉強中である。次の演奏会では、さらにより良い演奏にしたいものだと思っている。

ダンディーズのピアニストとして10年、 そして今回5回目のコンサート

ピアノ
中村 真理



第4回演奏会が開催された2004年からダンディーズに通うようになり早10年。私にとっても第8回演奏会は、10年目で5回目のコンサートと節目の公演となりました。

人間年を重ねると声量は落ちていくものですが、それに替えて柔らかな響きがより増してきたのではないかと、今回取り組んだ「水のいのち」を聴き感じました。フルートの片爪さんにも参加して頂いた「日本の笛」は、歌い慣れた曲ということもあり、特に良い出来だったと思います。

合唱はソロとは違い、自由なテンポでアゴギクをすることが困難な形態でしょう。日本の笛のように大きな揺れを伴う曲をあそこまでまとめ上げることができたのは、正に武藤さんのお力だと感じました。これからの課題は、その柔らかな響きを支えるだけの基礎的な発声を磨くことだと思います。健康第一で頑張ってくださいね！



2度目の共演でした

フルート
片爪 大輔

20周年の記念演奏会おめでとうございます。前回に続き二度目の共演をさせていただき本当にありがとうございました。器楽を専門にやっている身からすると、やはり歌の持つ力には嫉妬してしまいます。まず歌詞という強力な武器があること。そしてなにより、声という最も人

の心に響くであろう音を扱っていることです。はじめて練習にうかがった時、そのあたたかい響きを羨ましく思ったのでした。

これからの20年もますますの発展があることをお祈りしています。



楽譜を外して歌えると もっと笑顔になれるのでは・・・？

ステージマネージャー
佐藤 成美

男声合唱団ダンディーズ『創立20周年記念第8回演奏会』、無事終了、おめでとうございます！無事というより大盛況でしたね。素晴らしいことですし、児童合唱団に関わっていた身としては羨ましかぎりです。その記念すべき皆さんの晴れ舞台をお手伝いさせていただき、(これでよかったのか甚だ？

ですが)、光栄でした。至らなかった点はどうぞご容赦ください。

今回は、全員が楽譜を外して歌えるコーナーがあるといいな！♪もっと笑顔になれるのでは…？

団員の皆さまが健康でずっと歌っていけることとダンディーズのご発展を陰ながらお祈りしております。私も精進いたします。

ありがとうございました。



拍手や溜息から

お客様の満足度を感じました アナウンス 澤邊 敏江



影アナは、客席からは見ることでできない光景を楽しめます。指揮をする武藤先生の表情や、短時間の幕間に大急ぎで衣装替えする団員の姿も舞台のソデにいるからこそ見るができるものです。残念ながら客席は見えませんが、お客様が満足していることは拍手や溜息から感じ取れました。まさに「音を見る」ということでしょうか。

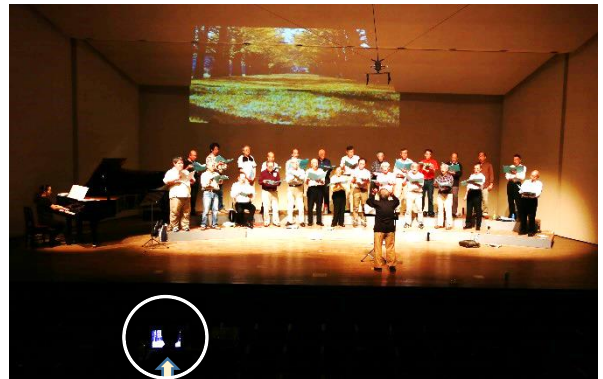
「美しき水車小屋の娘」では、恋する若者の気持ちをどう表現するかが課題で、最も緊張したステージでしたが、ナレーションの後に歌が続くという快感も味わえました。良い機会を与えてくださりありがとうございました。

側面から見たダンディーズの印象 -未永くご一緒に！-

むさし野男声合唱団 宮川 千明

武藤先生編曲の曲から合唱組曲、アカペラ、歌謡曲に至るまで多彩な曲に取り組むだけでなく、ナレーションや台詞、映写など演出にも力を注ぎ、お客様に楽しんでもらおうという演奏会に対する真摯な姿勢には頭が下がります。また、演奏会前のゲネプロや当日のリハーサルのときは、指揮者の指導も鬼気迫る迫力で決して妥協することなく緊迫感で一杯ですが、いざ演奏会が始まり、例えば団長の石川さんのセリフが始まると会場のあちこちから笑い声が聞こえ、会場全体が暖かい雰囲気になります。

演奏会は女性の割合が多く常に満席で、演奏会が終わる頃には、お客様の満足そうな顔を見ることが出来ます。また、演奏会後の打ち上げでは、準備・後片付けとも、サポーターの方々が、テキパキと手伝いをされているのが印象的です。これは、ダンディーズが地元で根付き愛されていることの証です。今後とも、未永くご一緒出来ることを願っております。



映像担当宮川氏（シルエット）：ステージリハーサル風景

寄稿

「水のいのちは高田先生の願い通りに歌って頂いた」と語る

高田三郎先生の愛弟子の女性より

6日のコンサートが終わって4日後の10日(木)小金井公園の江戸東京たてももの園のボランティアに参加していると、呼び出しがあって妙齢な御夫人が訪ねて来られました。

今年出来たばかりのデラ・ランデ邸のテラスに座ってお話を伺いました。

『国分寺の女声合唱団の4人創立者の一人で、40年継続し今も歌っています。合唱団は、高田先生の指導を受けていて、今の指揮者も高田先生のお弟子さんですから、「高田先生直属の合唱団」と云っても過言ではありません。先生の指導は誠に厳しく、一寸間違えると楽譜が飛んできたり、ピアニストに対して「下手！」と怒鳴りつけたりしておられました。でも本番のステージや懇親会の時には打って変わったように優しく、素晴らしい先生でした。

私達の合唱団では、40年の合唱団の歴史の中で、高田先生作曲の「風のうたった歌」や、「私の願い」「この地上」「心の四季」など色々な曲を演奏して来ました。「水のいのち」は厳しい練習を受けましたがものにならずステージにのせられませんでした。それほど難しい組曲です。

6日のダンディーズさんの演奏を聴いて、高田先生の指導を思い出しながら、此处はこのように歌って欲しいと願っていると、本当にその願いを叶えて歌って下さり、大感激でした。ピアノ伴奏も見事曲想もよく捉えておられ感服致しました。今もまだ、心が感動に揺れています。

ダンディーズの皆さんに私の感謝の気持ちを伝えて頂きたく伺いました。『・・・とのことでした。「ダンディーズ諸兄・指揮者・ピアニストに必ずお伝え致します」と誓ってお別れしました。

(柘植洋三 記)

I ステージ 「日本の笛」

バリトン 尾上 彰



知られているのは「びいでびいで」くらい、初めて曲集を手にした時の印象は、地味な短編の集合体、という感じだった。歌っていくうちに、まず感じたのは一つひとつの詩の輝き、さすが民俗詩人を以て任じる白秋の詩である。そして、作曲・編曲者の気配り、テンポや表情はワンフレーズ毎に違う動きを求めている。まるで、芝居の中の役者の一人ひとりにその場に応じた仕草とせりふを求めているように。2012年7月のそれいゆさんとのジョイントコンサートを目標に先ず仕上げた。新鮮な曲への憧れが、フルートのリードに引き立てられて、それなりのレベルに仕上がったと感じた。3回目にあたる今回の第8回演奏会で、最終的に暗譜ができなかったのは残念だが、指揮者に対する集中などの点では、良いステージだったと思う。ピアノとのアンサンブルはぴったり、今回もフルートに圧倒されたきらいはあるが、発声の問題か？



II ステージ 「美しき水車小屋の娘」

セカンドテナー 奈須野 敬久



Die schöne Müllerin (作品 25,D795)、ダンディーズも大変な作品に取り組んだものです。これは、フランツ・シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」であり、「冬の旅」・「白鳥の歌」と共にシューベルトの名だたる3大歌曲集の一つであることは言うまでもありません。若い粉職人が、修業の旅で水車小屋の娘に恋をして、失恋する物語であり、大変にロマンティックな名曲ですが、多くの団員が高年齢の我が合唱団が、しかも苦手なドイツ語の歌詞で挑戦することは、当初から相当な苦難が予想されました。果たせるかな、

団員の多くは、まずは独語で歌う感覚がなかなかつかめず、アクセント、ウムラウト、子音、促音、破裂音等々、歌詩の理解の前に基本的な言葉の技術で悪戦苦闘の連続でした。武藤指揮者のご苦労もさることながら、皆さんもそれぞれに大変に苦勞をし、Youtubeで本職の歌を聴いたり、必死に努力したようです。2年近くにわたった練習の末、遂に演奏会の時を迎えました。演奏の結果はどうであれ、老境にあるおじさん達が、190年前に若く多感な天才音楽家により作られた名曲を懸命に歌うなんて、改めて歌は本当に素晴らしいと思いました。加えて、昔ハンブルグに数年駐在経験のある友人が聴きに来てくれて、「演奏を聴いてドイツの田園風景を思い出した、また歌もドイツ語らしく聞こえたよ」と評してくれました。お世辞半分にしても涙のほど嬉しい気持ちでいっぱいになりました。



IIIステージ

「懐かしの昭和歌謡」

バス 酒井 健二

♪「イヨマンテの夜」♪



♪「田舎のバス」♪



日本人にとって歌謡曲は心に温かく響く素晴らしい歌です。今回の創立20周年記念演奏会は男声合唱組曲で3ステージを歌いましたが、ダンディーズの特徴である親しみやすい、楽しいステージは昭和歌謡しかありませんでした。～伊藤久雄からさだまさしまで～とのサブタイトルで今から64年前にヒットした「イヨマンテの夜」から昭和30年代にヒットした中村メイ子の「田舎のバス」、フランク永井の「公園の手品師」そして最後の曲はさだまさしさんが20-30年前に歌った「北の国から」と「主人公」を歌いました。このステージではスライド投射したり、照明を変化させたり、また、コントを入れたりと変化を入れました。最近では歌謡曲もあまりヒットする曲がなくなりましたが、いつまでも長く歌われる歌謡曲は日本人にはびつたりだと感じました。

IVステージ

男声合唱組曲

「水のいのち」

トップテナー

雨宮 一男



今回のテーマ「水・・・その永遠なる恵み」、云わば「水のいのち」そのものである。比較

的短期間の取り組みでステージにのせた！当初は正直無理な計画と思った。しかし結果としてこのステージを設定したことで、20周年に相応しく一層充実した演奏会になったと思う。

思えば20年程前にならうか、混声で歌った経験があるが、当時は感情が燃えることはなかった。数年後？同志社大学グリークラブOB合唱団の演奏会で聴いた際の感動は忘れられない。曲全体のイメージが心に焼き付いた。特に4.「海」の…充ち足りた死を そっと岸边にうち上げる……（この部分はその後の練習も含め、毎度歌うたびにジーンと込み上げて来るのおぼえる）男声合唱で歌ってみたい！ そう思ってから月日は経ち、ダンディーズでついに実現したのだ。練習過程は確かに厳しかったが、歌いきった時の気持ちは…充ち足りた感動… 感無量だ。この曲をほぼ全員ステージに立ち歌えたことが何より嬉しい。

それぞれ感情表現も出来たものと思う。さらに磨きを！



アンコールは「スタンドアローン」、朗々と歌うソロの感情を受け、演奏会全体の満ち満ちた感慨に浸り、そして超満員のお客様を意識しながら歌い上げた。

水
の
永
遠
な
る
恵
み



◇ メンバー全員ステージに立てたことに感激。「日本の笛」、最も好きなステージ、もう少し早めに追い込みたかった。2ステは、横文字苦手につき武藤指揮者を必死で追いかけた。面白い取り合わせの3ステがあって演奏会のバランスがとれた。今回何といても「水のいのち」あったからこそ演奏会がしまった。男声合唱版を見直す。武藤さん、中村さんお二人あってのダンディーズと改めて思った。

(雨宮一男)

◇ 体調不良もあり、練習に完全に没頭出来なかったが、演奏最終曲では、お客さまと一体の共鳴感を得る事が出来、会場からの歓声は我々出演者をより一層高揚させ手応えを感じた。演奏曲目が少し多かったと思う。(五十嵐章夫)

◇ 「日本の笛」一旦仕上げたが、その後間を空けすぎたこと後悔している。シュールト、独語は付け焼刃では困難、日頃からの慣れが必要。昭和歌謡、メンバーの加齢化で動きがギクシャク、演出に慣れた人が欲しい。「水のいのち」、追加レパートリーで実施を迷ったが、武藤指揮者の熱意で何とか仕上がった、感謝。ヒナ壇に28人全員が立てた、団の特徴たる結束力が如何なく発揮された。全員が分業し素晴らしい成果を上げたことに感謝。武藤さん、中村さんにも大感謝。(石川頼男)

◇ 今回も懲りもせず千葉からの参加。武藤指揮者のシャトルバス発言よろしく、沢山ソロをさせていただきました。また機会があったらまた参加させて下さい。(折笠智明)

◇ 『日本の笛』は、自分の子ども時代そのものでしたし、『水のいのち』は歌詞を自分の文中に引用したりしていましたから、気持ちよくその世界に入る事が出来ました。東久留米混声合唱団を含めて25年になる合唱生活の中で、楽曲の世界に浸りながら歌い得たのは初めてでした。このような眩く感動を経験できたのも、東混時代以来お付き合い頂いた雨宮さんあっての事でした。心からお礼申し上げます。(柘植洋三)

◇ 私の知人には馴染みのある歌が少なかったようで、素晴らしいステージだが楽しさに欠けるとの感想をいただいた。アンケート用紙に「演奏会にまた来たいか」を入れたいが。(中山英一)

◇ 思い切った発声、身体を動かさない、じじむさくない姿勢と動作に気がつけたが、団全体の声量が落ちた、響きが十分でないとの批評を受けた。3ステの動作で“ダンディーズ老いたり”の印象を与えたようだ。このステージの衣装もちょっと反省を要する。”Dandies”ではなく“ダン爺ズ”と呼ばれたくない。(藤森正文)

◇ 加齢による心身力減衰傾向の我が身ながら皆様の熱気ある企画・運営に脱帽。1ステ、重厚なハーモニー部分少なく練習エネルギーの割には、演奏ばえない。2ステ、独語・リズムに馴染めず恥ずかしい思い。3ステ、取り組みやすいステージと期待していたが、難・長曲ばかり、もっと歌いこんで演・聴者共々楽しい演奏にしたかった。4ステ、合唱好きにはポピュラーな曲なので、1年以上取り組んでから演奏したかった。引き続き練習したい。ピアノ、フルートには大変助けられた。(石禾順夫)

◇ ステージに立てて幸せ、いつも練習の時、足を引っ張るのではと悩んでいたのが嘘のように本番では歌えて、我ながら感動した。(今村幹雄)

◇ 緊張感、開放感、充実感等々、日常では得られない感情の振れを味わうことが出来た。日頃の練習の積み重ねの賜物であり、そのような環境に身をおいていられることに感謝。分業しての演奏会の企画・準備の手際良さに感心。(坂川隆人)

◇ 来場者から素晴らしい演奏だったと褒められた。ここ半年ほど体調不良で練習不足の感があったが、満席の会場でフルートに導かれて「日本の笛」、そしてドイツ語の「美しき水車小屋の娘」等素晴らしい演奏ができ感激した。(櫻井奎吾)

◇ 名曲の数々に出会え・取り組めたこと幸せだった。特に「水のいのち」は、先輩が出版当時(カワイ楽譜に勤務)係わっていたことも分かり嬉しい思い。チケット担当としても、満席にできたこと、皆さまに感謝。(中山悦夫)

◇ 個人的には1ステ「日本の笛」と4ステ「水のいのち」が満足して歌えた。2ステは、皆さんドイツ語に大苦労の連続、結果としてこの辺りが今のダンディーズの実力ではないかと思う。出来れば日本語訳の歌詞で歌った方がいいのかも知れない。3ステは、他の歌に比べて練習時間が少なかったようで、あまり満足感はなかった。(奈須野敬久)

◇ 演奏会を満席に出来る企画・集客力は素晴らしい。裏方の皆さまに感謝。バックの映写が何だったのか気になった。(広瀬公司)

◇ 4ステージ共内容の濃い曲で大変疲れた。「日本の笛」を除き歌い込みが十分ではなかった。マネージメントが演奏会の準備をはやくから始めたのは大変よかった。T2は、全員がステージに上りそれなりに歌えたと思う。(望月 沖)



感

想

- ◇ 楽譜を離れて指揮者を見ることで、会場にも目が向きステージの緊張感を鎮めて歌うことができた、初めての体験。日曜の夜の練習が続くことは辛い、半分程度は昼間があるといいと思いつつ練習に励んだ。(石塚小太郎)
- ◇ 自分のベストを尽くした演奏会が終わり、娘の結婚式が無事済んだような心境。(井原義明)
- ◇ 平成23年秋の入団で初舞台だった。最初は声も出せず大変だったが、1年間自分なりに練習舞台に立てた。暗譜をめざして「日本の笛」を練習、その過程で歌の解釈・咀嚼に大変効果があることが分かった。(太田猛男)
- ◇ 演奏会の組織だった準備と遂行に感服、その成果が十分に出た。1ステ、2ステ及び4ステがよかったようだ。個人的には加齢のためダイナミックレンジが狭くなっていると感じるが、若いメンバーが戦力になってきており、ダンディーズ変身のスタートラインに立てたのではないかと思っている。(尾上彰)
- ◇ 満足した、忍耐強く仕上げしてくれた武藤指揮者に感謝。お客の団に対するやさしさを痛感(あの熱烈な拍手と熱気は他所ではまず見られない)。これほどまでに支持してくれるファンの方々に改めて感謝。(小坂紀一郎)
- ◇ 晴れ晴れとした気持ちで舞台に立ち、指揮者に集中して歌えた。適度な緊張の中に余裕もあり満足。ゲネプロ体験と指揮者からの諸注意・暗譜の指示が効果的。音取り用のCD大いに役立った。(永森修吾)
- ◇ 音取りが苦手何度でも繰り返し聞いて音譜を覚えているため、私自身曲を覚えるのに非常に時間がかかる。『水のいのち』が追加された時には、何度もステージは諦めようと思ったが、ピアノの音取りCDの助けもあり、全曲歌う事が出来た。その意味では、私にとって、非常に充実した演奏会だったと思う。反面、『日本の笛』以外は、愛着感の様なものが芽生えてこず、何か一抹の寂しさを感じている。(上野文信)
- ◇ 入団して10年、5回目の定期演奏会だった。こんなに長い間続けてやったことは、若い頃やったラグビーぐらいなもの。よく続いたものだ和我ながら感心している。今回はテンポの速い、不慣れなドイツ語に舌の回転が追い付かず苦勞した。家の事情で3ヶ月程休団したことも習熟度不足の原因になったようだが、何とかそこそこはやれたのではないかと思っている。いつもながら、受付や会場運営にあたってくださった女性サポーターの方々に深い感謝。この演奏会を最後に引退すると常々言っておられた林田さんが、体調を崩され、演奏会に参加されることなくお亡くなりになったことは誠に残念。(上村創一)
- ◇ 何と言っても嬉しかったのは今回の定演で組曲「水のいのち」を全曲歌えたこと。それは、部分的には歌ったことは有ったが、キチンと全曲を歌ったことが無かったから。男声合唱の組曲として作曲された「月光とピエロ」や「富士山」とは生い立ちが異なるらしいが、繊細さと強さを兼ね備えた名曲を歌い終えた時の清々しさは何物にも代えがたい感興だった。武藤さん、中村さん、に感謝。(倉島彰)
- ◇ 演奏会の盛況は、各係りの連繋の成果。20周年らしい記憶に残る新ユニフォームでの演奏会だった。1ステは団員が暗譜に近い形で日本の原風景を歌いあげた。2ステはドイツ語が上手く伝わったか心配だった3ステは衣装も代わり楽しい舞台となった。4ステは圧巻、よく短期間で高田三郎の世界を歌い上げた。アンコールも最後で疲れたがまあまあ無事に終わった。今後の課題として、選曲とか暗譜か。(小林征夫)
- ◇ 本格的な合唱組曲のため舞台構成に苦勞した。遊びのステージは3ステだけで思いつきり楽しくしたかったが、暗譜が出来ず中途半端に終わった。スライドの投射も十分でなかった。4ステのための着替の時間が長くなってしまった。ゲネプロは効果的だったが、ステリハは、あまり時間をかけない方が良かったかも知れない。ステマネ、アナウンサーなどスタッフの皆さんベテラン揃いで極めて円滑に進行した。皆さんに感謝。(酒井健二)
- ◇ 動員力の素晴らしさに感服。最後の1ヶ月でまとめ上げた武藤指揮者に脱帽。事前の準備、広報、当日の運営は申し分なかった。演奏会場を使ったゲネプロ素晴らしい。全曲ピアノ伴奏付きで音の下がりあまり気にならなかった。選曲は4ステ全部満足、楽しめた。ただ、1曲くらいはアカベラが欲しい(西谷洋)
- ◇ 前回までは固定したメンバーが中心だったが、今回は新メンバーも多くフレッシュに感じた。台風で中止になった合宿に代わる近くでの2日の特訓は良かった。「日本の笛」と「水のいのち」の出来が特に良かったのでは。(横山正樹)





満員のお客様

1) 印象に残った各ステージ毎のコメント (記入 77 人)

日本の笛 *フルートが入ったことで、より豊かなステージになったと思います。*「親舟小舟」は楽しい曲で力強かった。*懐かしく日本の原風景が連想された。*シフォンベルベットの感触の音色に引き込まれました。*「山は雪かよ」が気に入りました。*だんだん声が出てきましたね。「追分」は良かったです。*男声合唱団というちょっと堅苦しさの中で、ホッと暖かさを感じるステージでした。*歌詞があり理解しやすいですが、北原白秋の詞はすごみを感じます。*豊かとなった今は良いことも多いですが、

忘れてしまったものも多くなったような気持ちにさせるステージでした。

美しき水車小屋の娘 *ダンディーズ世代の男性にしか出すことの出来ない深見のある、落ちついた声質にピッタリ
の選曲でした。とても心地よかったです。*大曲をよく原語でこなし、さすがのベテランも良く、ソロの方も感情が入り
良かった。ナレーションの入り方が上手くスーッと曲に入れた。*「妬みと誇り」も良かった。*ダンディーズの別
な顔を見たと言った印象で、ナレーションの入れ方も良かったです。*解説、照明の工夫もあり素晴らしかった。解
説者も、心がこもっていて良かったです。*(あのお歳で)シューベルトをこんなに・・・!! 若い時からかなり歌いこん
でるぞ!とファンになっちゃった。*古き良きドイツが目の中に浮かんできました。やわらかい響きがとても素敵です。

懐かしき昭和歌謡曲 *武藤氏の解説があつて、歌の音符の内容に魅了されました。「田舎のバス」は楽しくアレンジ
されて乗ってみたいになりました。ピアニストの伴奏もとても素敵でした。シャトルバスの彼の声を忘れません。*「主
人公」でのフルートの伴奏がとてもよかったです。*歌も勿論ですが、演出がとても面白く、映像や指揮者の方のトー
クをまじえ、とても引き込まれるステージでした。*ステージのバックに照明が入るとはなやかに、聴いている私
も明るい気持ちになりました。*特に「イヨマンテの夜」は、皆さんとても伸び伸びと歌ってらっしゃるようでした。
「北の国から」は、歌詞がない分声の柔らかさ、美しさがひびきました。「主人公」は、しっとりして良い曲です
ね。*「公園の手品師」は、低音の魅力の曲が見事にアレンジされて、別の味があった。*「田舎のバス」サイコーで
した。演技力もあって笑ってしまいました。*幅広いジャンル、演出がステキ。ユーモアも入り、ナレーションも皆スキ、
スキ、——。感動の連続。心がリッチになれそう。

水のいのち *これぞ男声合唱の魅力。深く朗々と歌い上げられ最高!! *昔歌った記憶がありますが、今日のは全然
違う。重厚な仕上がりで驚きました。*聴きごたえがあった。ピアノの先生が素晴らしい。*「雨」と「海」がよかった。
特に「海」は男声合唱の良さと力強さが表現されていた。ピアニストも素晴しかった。*今回はメーンの「水のいのち」
と思って来ました。ますます磨きがかかって団員も増々エンジュクの境地へ達する道へ歩みはじめておられると感じま
した。*美しく吸い込まれる様な水の流れを感じさせてくれました。特に「川」がすばらしく!! また聴きたいです。お
一人お一人の楽しく歌っている様子うかがえます。全体的にやさしく、清く、水の美しさを伝えて下さいました。そ
れが目に浮かびます。*「水のいのち」の1曲目、2曲目の *pianissimo* が素晴らしかった。*男声合唱の拍のある歌
は楽しく、リズム感があり、強弱がうまく取れてよかった。全員の皆様の、これにかけた気持ちが分かりました。

2) 全体についてのご意見、ご感想

*全体的にピアノとフルートが効果的であった。*指揮者がすばらしい! 皆が上手になります。歌いやすい指揮ですね。
*パンフレットの構成が良い。歌詞も含めて細かいところまで配慮が行き届いていて、合唱団の性格がうかがわれる。
*アウンスの女性の方の紹介や語りも素晴らしかった。*会場係の方もご配慮が素晴らしい。*構成4部充分楽しめま
した。衣装もそのステージに合わせて一曲ずつの長さもちょうど
いい。テノールも、バスも(低音)の底力もあり。楽譜を見ないで歌う
と顔がよく見えてよく、せめて1曲くらいは暗譜で。*トップテナー
を中心に芯が入っているので、メロディーラインがはっきりしていて
良い。パートも地声が出ていないので綺麗なハーモニーになっている。
トップの明るい音色、ベースの充実したまとまり、内声の柔らかい表
現力、言うことなし。段々上手くなったと周囲の声。



万感込めて「ありがとうございました」

3) 創立「20周年」への一言

*20周年おめでとうございます。年齢を重ねられてもますます歌に深みとパワーを感じます。生涯現役合唱団! 頑張ってくださいませ。*皆様のスタイルが20年前より格好よくなっていませんか?ダンディーズの名の通り、ダンディーな紳士に変身したことでしょう。この先も継続されて増々魅了されますことを願っています。*パンフレットを拝見し、今回の演奏会だけでなく、今までの一回一回の演奏会での観客を楽しませるための工夫や想いを感じました。それがこの20年につながり、満席状態を生むのだなあと思います。*東久留米のため頑張ってください。ダンディーズという良い名前を維持するため、少し若い団員が入ると良いですね。*25周年、30周年と頑張ってください。やめないで全員イスに座っていても *続けることは素晴らしいと感じました。年はとって声は鍛えていけば衰えないことがよく分かりました。*名前通りの「ダンディーズ」男の色気とシャレッ気を大切に一味違った地元から愛される「ダンディーズ」でいて下さい。



プログラム 11ページ
『写真とピククスで綴る
ダンディーズの20年』より

元団員からの投稿

「水のいのち」のかくれシンコペ

元トップテナー 高野 幹英

総じてダンディーズの魅力は pp の柔らかい音色なのだと思ってきました。例えば「梢」などのような…。

「美しき水車小屋の娘」はとても良かった。私はドイツリートが不得意なのですが良かったです。しかしその反対にフォルテで躍動的な流れの表現には物足りないものを感じた次第です。

今回の各ステージの中では私も高校の時から何度も歌って思い出深い「水のいのち」について感想を述べさせていただきます。

もしかしたら全く見当外れの感想かも知れないと思いつつ申し上げます。あの組曲のテーマが「水」でありながら実は「人生」を水に例えているのだという事は他言を要しません。人生の楽しさ、苦しさ、切なさ、諸々の感情をあの曲の中でどう表現するのか。考えても考えても尽きる事がない。全曲に亘って書いているとキリがないので第三番について。あれこそ最も躍動感に溢れた曲ですね。中村先生のピアノから激しく逆巻く水と泡立つ波しぶきが見えるようです。その伴奏に乗って存分に歌わなければなりません。また、ここは特に途切れなく流れるように歌い切らないと。伴奏に負けてはいけません。じつは、あの曲は「かくれシンコペ」です。「よどむ淵、くるめく渦の苛立ち、まこと川は、山に焦がれて…」以下、ずっとあとまで続いてゆくフレーズは、音符だけでは気付くことは難しいけれども、言葉の意味を考えて歌えばシンコペーションとなります。そこから躍動感が生れてくる。そのように歌うともっともっと良くなると思います。聴きに行ったら良かった。とても貴重、有意義な時間を過ごす事が出来ました。有り難うございました。



プログラム表紙の
デザイン原画
「落合川風景」

有意義な2時間でした。その上で

元セカンド 馬場 憲二

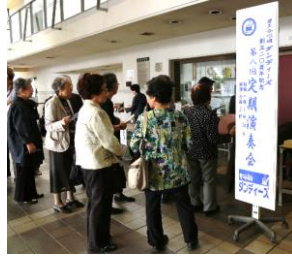
楽しい2時間でした。本当に2時間が有意義でした。その上で気付いたことを申し上げます。

「水車小屋」は、シューベルトの中でもなじみの薄い曲で、原曲で歌われたこともあってお客さんの多くは退屈だったと思います。歌は言葉なので、歌詞の意味が届かない原曲は、慎重にした方がいいと思います。

今回は、ベースに大砲が何本か有って良く響いていましたが、他のパートはトップも含めてピッチが揃っていないので「もやっと」聞こえました。新しい人が増えたのでやむを得ないことではありますし、むしろ新しい人が多いのによくあそこまで纏められたと言うべきかも知れません。しかし贅沢を言わせてもらえば、各パートのピッチが揃うと更に上質の演奏になったと思います。

私は、この頃ムリをせずマイクを使うことを推奨しています。合唱では邪道なのですが、やはりお互い高齢になって来ていることでもあり、ムリしなくてもフォルテッシモが効かせられるという意味でも考慮すべきではないでしょうか…。昭和の流行歌のステージは、他のステージからすればクオリティーが高いとは言えませんが、4ステージ全てが同じようなクオリティーでは、お互いに殺し合ってしまうから、バラエティーとして生きていたのではないのでしょうか。トータルとしては、及第点。お客様は喜んで帰られたと思います。





Welcome! 看板と受付風景



団員・スタッフ・ファン皆楽しく打ち上げアラカルト



打ち上げ進行役 倉島さん

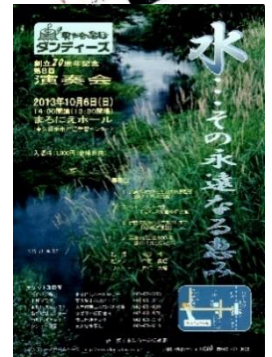


限られた条件下での演出
照明を駆使した昭和歌謡ス
テージのムードづくりに武藤さん
のトークが欠かせない



早くから着手した
チラシ・ポスター
チケット
プログラムなど

広報の
こころ



ダンディーズ団員募集 男声コーラスの醍醐味を一緒に楽しみましょう

男声合唱団ダンディーズホームページ <http://h-dandies.sakura.ne.jp/>

連絡先：石川穎男 042-477-0638

編集後記



2007年以来久々の「あんさんぶる」発行。今回は「20周年記念第8回演奏会」特集号とした。実施から早4ヶ月が経た今、本格的に編集している。原稿を読み返すごとに、あのステージが蘇り充実した気持ちを再現しながらの編集。時として記憶をたどり、また資料を紐解いて確かめつつ今日に至った。この日々が次回以降に少しでも役立てば幸いである。(雨宮一男)

「あんさんぶる」の発刊に始めて携わりました。過去の7回までの各号にすべて目を通し、その歴史の重さを感じながら取組みましたが、今回は特に写真を多くし、アンケートや団員の感想に重きを置いた編集に努力しました。(小林征夫)

渾身の編集作業をちょっぴりお手伝いさせていただき、その作業がいかにも大変でエネルギーと神経を使わねばならないかを改めて認識した。ダンディーズの貴重なメモリーとして将来長く保存されることを願っている。(奈須野敬久)